

●インタビュー●

ゆっくりとした時間の流れ。 山の知恵に敬服

森林作業員の酒井良孝さん(上川原町)の前職は、自動車部品メーカーの設計士。13年前、現在の職への転職を機に、家族とともに愛知県から旧高根村へ1ターンされた経歴を持ちます。今回は、森づくりの第一線で活躍する酒井さんにお話をうかがいました。



—今の仕事に就かれたきっかけをお聞かせください。

酒井 趣味のバイクでよく山道も走っていたので、森林組合の仕事は知っていました。前職に不満があったわけでもなく、「ちょっとやってみるか」と軽い気持ちでの転職でした。

—異業種からの転職は、苦労も多かったのでは？

酒井 全てが初めての体験。親と同じ世代の先輩方いろいろな教えてもらいました。知恵や経験ではかないません。まさに「職人」の言葉がぴったりで、尊敬に値しますよ。本来は、私たちの世代がそうした知恵や経験を受け継いでいかなければいけないのに、今そこが途切れているのかなと思います。

—この仕事について新たな発見はありましたか。

酒井 前職ではバブル経済真っ只中で、徹夜での仕事はざら。今は人本来のサイクルで生活しているというのが実感です。

—最後に森づくりについて一言。

酒井 森づくりは、時間がとてもゆっくり流れていく営みです。それが経済性という点ではネックになっているのかもしれない。

●高山市森づくり委員会

市民と協働で進める森づくり

市では、市民の意見を施策に反映し、市民と行政が協働して森づくりを行うため、「高山市森づくり委員会」を設置しています。

委員会は、市内の森林所有者や林業事業者の代表者など林業関係者のほか、森づくりの活動に携わっている市民活動団体で構成。市が策定している間伐推進計画や

森林整備計画の審議のほか、地域の森づくりイベントへの参加など積極的な活動を行い、現在の森が抱える課題について協議、市の森林・林業施策への提言を行っています。

なお、委員会の活動内容については、市ホームページでもお知らせしています。



森づくりについて話し合う「森づくり委員会」

■森づくり委員会委員(敬称略)

- 大森 清孝(飛驒北アルプス自然文化センター)
- 佃 正壽(森林たくみ塾)
- 二村 弘子(飛驒フォレストレディース)
- 山田 貴敏(高山あすなる会(日本木材青年団体連合会))
- 岩畑 正義(NPO法人ひだ位山ふるさと学校)
- 上田 康美(ツリークライミングクラブ橙)
- 西部 良夫(岐阜県政策評議員)
- 木戸脇 進(飛驒林業経営者協会)
- 山下 茂樹(高山市林業士会)
- 石原 幸憲(飛驒高山森林組合)
- 西田 宏(高山市農政部長)